

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	運動学Ⅰ
授業コード	AF208
英語名称	Kinesiology 1
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	大澤 一郎
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	<授業の概要> ・「ヒトの動き」および「運動の構造」のメカニズムを理解し、運動および動きの評価の基礎を学習することによって、実践的運動理論を柔道整復の実践へ応用することを学ぶ ・運動に用いられる運動器のしくみとその働き（機能解剖）を理解し、そこから運動（動き）の一連および局面の構造をバイオメカニクスの観点での検討し・学習する
科目に関連する実務経験と授業への活用	<科目に関連する実務経験と授業への活用> ・医育機関の大学および付属機関にて教育・研究、大学付属病院にて総合診断診療・研究・指導に携わってきた歯科医師（公認心理師・臨床心理士）が授業を担当する
到達目標	<到達目標> ・ディプロマポリシーに掲げる「科学的根拠に基づいて評価・判断し、幅広い知識を身につけ、複合的な視点から知識を統合し問題解決にあたることができる」ことを目指し、解剖学・運動学の関連用語を理解し、運動力学・生体力学について学習する ・身体運動に関する原理を、神経回路、骨や関節構造から理解でき、身体運動学の視点から説明できることを目標とする ・運動学Ⅰに続いて運動学Ⅱを履修し、十分に理解することにより、柔道整復やアスレティックトレーナーへの応用を目的とした、関節運動学および歩行ならびに走行の特徴を理解し、説明できる能力を習得できるようになる
計画・内容	<計画・内容> 第1回 オリエンテーション 運動学の講義の進め方 運動学で用いる用語 第2回 身体運動と力学Ⅰ 身体運動に関する力、人体における単一機械構造 第3回 身体運動と力学Ⅱ 運動の法則、仕事と力学的エネルギー 第4回 運動器の構造と機能Ⅰ 骨と関節の構造と機能 第5回 運動器の構造と機能Ⅱ 骨格筋の構造と機能 第6回 神経の構造と機能 第7回 運動感覚 運動の制御機構 第8回 反射Ⅰ 神経回路 反射と反射弓 第9回 反射Ⅱ 脳・脳幹の関与

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第10回 連合運動と協調運動 第11回 随意運動 第12回 身体運動と力学～随意運動に関する理解度確認テスト 第13回 姿勢1 重心 第14回 姿勢2 立位姿勢の制御 第15回 運動学総論の総括
授業の進め方	<講義の進め方> ・パワーポイントを使用した、教科書に基づいた内容の授業形式で、適宜資料を用い理解を促す
能動的な学びの実施	<能動的な学びの実施> ・学生への質問も活発に行う予定であるため、積極的な受講態度を期待する ・講義内容は前回からの積み重ねとなっているため、すべての講義に出席することを期待する ・やむを得ず欠席した場合は、講義情報を友人などから入手し次回の講義までに理解する
授業時間外の学修	<時間外の学習> ・講義前に複数の教科書の該当箇所を読み、不明な用語等を調べておく（各回30分～1時間程度） ・講義後は教科書や資料を基にレジュメを作成する等して内容を整理、あるいは理解度確認テストを通じて、理解が乏しかった箇所を整理し理解する（各回1時間～2時間程度）
教科書・参考書	<教科書> ・全国柔道整復学校協会監修 齋藤宏・鴨下博 著 運動学 改定第3版 医歯薬出版 2012 ・全国柔道整復学校協会監修 岸清・石塚寛 編 解剖学 改訂第2版 医歯薬出版 2008 ・全国柔道整復学校協会監修 彼末一之 編 生理学 改訂第4版 南江堂 2020 <参考書> ・講義中に適時紹介する
成績評価方法と基準	<成績評価方法と基準> ・定期試験（90％）、理解度確認テスト（10％）により総合的に評価する
課題等に対するフィードバック	<課題等に対するフィードバック> 確認テストは返却し、授業内で解説を行う
オフィスアワー	<オフィスアワー> CampusSquareを参照 補講等の都合により急な対応ができないこともあるので、事前にアポイントを取ることが望ましい
留意事項	<留意事項> ・必修科目であり、専門科目の履修に重要な科目でもあるので、受講にあたっては真摯に取り組むこと ・不適切な態度等と担当教員が判断した場合、厳正に対処する ・事前に高等学校「物理基礎」レベルの内容を理解しておくことが望ましい
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	<非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」> ・非対面授業になった場合、「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」は以下の通りである ①授業の進め方 zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する zoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信する ②成績評価方法と基準 zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とし期末試験の成績(100%)で評価する（全出席が望ましい）

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	運動学 II
授業コード	AF252
英語名称	Kinesiology 2
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	大澤 一郎
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<授業の概要> ・「ヒトの動き」および「運動の構造」のメカニズムを理解し、運動および動きの評価の基礎を学習することによって、実践的運動理論を柔道整復の実践へ応用することを学ぶ ・運動に用いられる運動器のしくみとその働き（機能解剖）を理解し、そこから運動（動き）の一連および局面の構造をバイオメカニクスの観点での検討し・学習する
科目に関連する実務経験と授業への活用	<科目に関連する実務経験と授業への活用> ・医療機関の大学および附属機関にて教育・研究、大学付属病院にて総合診断診療・研究・指導に携わってきた歯科医師（公認心理師・臨床心理士）が授業を担当する
到達目標	<到達目標> ・ディプロマポリシーに掲げる「科学的根拠に基づいて評価・判断し、幅広い知識を身につけ、複合的な視点から知識を統合し問題解決にあたることができる」ことを目指し、解剖学・運動学の関連用語を理解し、運動力学・生体力学について学習する ・身体運動に関する原理を、神経回路、骨や関節構造から理解でき、身体運動学の視点から説明できることを目標とする ・運動学Ⅰに続いて運動学Ⅱを履修し、十分に理解することにより、柔道整復やアスレティックトレーナーへの応用を目的とした、関節運動学および歩行ならびに走行の特徴を理解し、説明できるようになる
計画・内容	<計画・内容> 第1回 オリエンテーション 四肢と体幹の運動 1 上肢帯 1 第2回 四肢と体幹の運動 2 上肢帯 2 第3回 四肢と体幹の運動 3 手関節と手 1 第4回 四肢と体幹の運動 4 手関節と手 2 第5回 四肢と体幹の運動 5 股関節 第6回 四肢と体幹の運動 6 膝関節、足関節と足部 第7回 四肢と体幹の運動 7 胸椎と胸郭、腰椎 第8回 四肢と体幹の運動 8 仙椎および骨盤、顔面および頭部 第9回 スポーツの基本動作における身体各部位の役割と運動のしくみ

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第10回 歩行1 歩行周期 第11回 歩行2 歩行の運動学的分析 歩行のエネルギー代謝 第12回 歩行3 異常歩行 走行 第13回 運動発達 粗大運動 微細運動 第14回 運動学習 運動技能学習の過程 学習の転移 第15回 運動学の総括
授業の進め方	<講義の進め方> ・パワーポイントを使用した、教科書に基づいた内容の授業形式で、適宜資料を用い理解を促す
能動的な学びの実施	<能動的な学びの実施> ・学生への質問も活発に行う予定であるため、積極的な受講態度を期待する ・講義内容は前回からの積み重ねとなっているため、すべての講義に出席することを期待する ・やむを得ず欠席した場合は、受講していない講義の内容を友人などから入手し理解しておく
授業時間外の学修	<時間外の学習> ・講義前に複数の教科書の該当箇所を読み、不明な用語等を調べておく（各回30分～1時間程度） ・講義後は教科書や講義メモを基にレジュメ等を作成し、内容を整理し理解する（各回1時間～2時間程度）
教科書・参考書	<教科書> ・全国柔道整復学校協会監修 齋藤宏・鴨下博 著 運動学 改訂第3版 医歯薬出版 2012 ・全国柔道整復学校協会監修 岸清・石塚寛 編 解剖学 改訂第2版 医歯薬出版 2008 ・全国柔道整復学校協会監修 彼末一之 編 生理学 改訂第4版 南江堂 2020 <参考書> ・適時講義中に紹介する
成績評価方法と基準	<成績評価方法と基準> ・定期試験で評価する（100%）。
課題等に対するフィードバック	<課題等に対するフィードバック> ・講義中に課題を課すこともある ・課題を課した場合は、講義中に解説する
オフィスアワー	<オフィスアワー> ・CampusSquareを参照 ・補講等の都合により急な対応ができないこともあるので、事前にアポイントを取ることが望ましい
留意事項	<留意事項> ・必修科目であり、専門科目の履修に重要な科目でもあるので、受講にあたっては真摯に取り組むこと ・不適切な態度等と担当教員が判断した場合、厳正に対処する ・事前に高等学校「物理基礎」レベルの内容を理解しておくことが望ましい
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	<非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」> ・非対面授業になった場合、「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」は以下の通りである ①授業の進め方 zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する zoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信する ②成績評価方法と基準 zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とし期末試験の成績(100%)で評価する（全出席が望ましい）

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	基礎柔道整復総論Ⅴ
授業コード	AF214
英語名称	Outline (Study) in Basic Judo-Therapy 5
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	吉田 真琴
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	柔道整復師が取り扱う外傷（スポーツ外傷を含む）に対する保存療法の意義及び治癒過程である生理的なメカニズムについて、総論で学習した内容を生かし医学的観点から学ぶことを目的とする。また、臨床現場における外傷時の整復に対する知識を深め、整復法の意義、種類についても理解できる力を養う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	単に保存療法の意義やメカニズムについて説明するだけではなく、柔道整復師の業務範囲であるか否かの判断（保存療法の限界）について、柔道整復師としての実務経験（臨床経験13年 現：帝京科学大学八王子接骨院 院長）を活かし講義する。
到達目標	カリキュラム・ポリシーに掲げる、「疾病内容、疾病治療、疾病の回復に関する知識や視野を育成する」を身に付ける為、外傷の治癒過程及び保存療法の有用性に関する問題提起、思考力を養い、保存療法の意義、治癒過程の知識の習得を目指し、施術に対する計画立案ができるようになる。
計画・内容	第1回 保存療法と観血療法 担当：吉田（柔道整復師） 第2回 保存療法のメリットとデメリット 担当：吉田（柔道整復師） 第3回 観血療法のメリットとデメリット（保存療法の限界） 担当：吉田（柔道整復師） 第4回 骨損傷の治癒経過①（概説・損傷組織） 担当：吉田（柔道整復師） 第5回 骨損傷の治癒経過②（治癒過程・予後） 担当：吉田（柔道整復師） 第6回 関節損傷の治癒経過①（概説・損傷組織） 担当：吉田（柔道整復師） 第7回 関節損傷の治癒経過②（治癒過程・予後） 担当：吉田（柔道整復師） 第8回 筋損傷の治癒経過①（概説・損傷組織） 担当：吉田（柔道整復師） 第9回 筋損傷の治癒経過②（治癒過程・予後） 担当：吉田（柔道整復師） 第10回 腱・神経損傷の治癒経過 担当：吉田（柔道整復師）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第11回 整復法①（骨折の整復） 担当：吉田（柔道整復師） 第12回 整復法②（脱臼の整復） 担当：吉田（柔道整復師） 第13回 固定法（総論） 担当：吉田（柔道整復師） 第14回 後療法（総論） 担当：吉田（柔道整復師） 第15回 総括 担当：吉田（柔道整復師）
授業の進め方	・基本的には、教科書・配布資料を用いて行う。 ・授業によっては、パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料等を利用する。 ・理解度を評価するため、小テストを実施する。
能動的な学びの実施	・学生への質問を活発に行う予定である為、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	・予習：授業前に予め解剖学・柔道整復学の教科書（特に総論で学習した、骨損傷・関節損傷・靱帯損傷）を熟読し、不明点をまとめておくこと（各回1～2時間程度：合計30時間） ・復習：授業後は自身のノートに授業内容をまとめること（各回1～2時間程度：合計30時間）
教科書・参考書	・教科書：全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 改訂第7版【南江堂】2022年 ・配布資料
成績評価方法と基準	小テスト（20%）+期末試験の成績(80%)により評価する
課題等に対するフィードバック	学生の発表の都度、コメントを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	本講義は、柔道整復師が行う保存療法について講義する。 保存療法の意義を理解することは、患者の予後を大きく左右する為、本講義は臨床現場においても非常に重要な内容である。 事前に柔道整復学総論について予習をすることが望ましい。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 ・オンライン形式および課題形式の組み合わせにより実施する。 ②成績評価方法と基準 ・試験：80% ・課題等：20%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	基礎整復技術実習Ⅰ
授業コード	AF116
英語名称	Basic reduction technical practice1
学期	2025年度通年（前・後）
単位	2.0
担当教員	鎌塚 正志, 佐野 秀明
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本講義では体表観察における骨・筋について学ぶ。 柔道整復の施術を行う上で問診、視診と共に触診は損傷を評価する上で最も重要な診察手法の一つである。 解剖学で人体の骨・筋を学ぶが、体表観察では骨格・筋の構造を2次元的な理解から3次元的な捉え方に変えるため、骨や筋をさらに詳しく理解することができる。さらに、視診・触診から人体構造、各部位の形状や特徴を修得することができる。 本科目では担当教員の臨床経験による触診技術と基礎解剖学を交えながら実習を進める実践的な科目である。
科目に関連する実務経験と授業への活用	接骨・整骨院、整形外科で勤務した経験を持ち、トレーナー活動で多くの外傷・障害を治療、経験してきた。また、スポーツ外傷・障害の治療・予防を研究分野に活動している。これらの経験を活かし講義する。
到達目標	カリキュラム・ポリシーに掲げる「人体に対する幅広い知識と視野を育成する」が実現するよう、下記の柔道整復の基礎知識・技術を身につける。 ①柔道整復師にとって重要な解剖学的知識である骨・筋の名称や部位（筋の起始・停止、作用、神経支配）を修得し、体表観察においてランドマークとなる骨・筋の位置を正確に触診することができる。 ②人体を構成する筋骨格がどのような構造・位置関係にあって作用するかを理解し説明できるようになる。
計画・内容	第1回：ガイダンス、体表解剖および触診法の必要性と目的、全身の骨格および名称と位置の確認 第2回：骨表面の形状（性状）についての用語 第3回：骨の形状による分類 第4回：触診の基礎 第5回：体表解剖ならびに触診における基礎知識のまとめ 第6回：肩関節の機能解剖および体表解剖① 第7回：肩関節の機能解剖および体表解剖② 第8回：肩関節の機能解剖および体表解剖③ 第9回：肘関節の機能解剖および体表解剖① 第10回：肘関節の機能解剖および体表解剖② 第11回：肘関節の機能解剖および体表解剖③ 第12回：手関節の機能解剖および体表解剖① 第13回：手関節の機能解剖および体表解剖② 第14回：手関節の機能解剖および体表解剖③ 第15回：総括（上肢骨の機能解剖および体表解剖） 第16回：上肢の機能解剖の確認 第17回：上肢骨の体表解剖の確認①

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第18回：上肢骨の体表解剖の確認② 第19回：股関節の機能解剖および体表解剖① 第20回：股関節の機能解剖および体表解剖② 第21回：股関節の機能解剖および体表解剖③ 第22回：膝関節の機能解剖および体表解剖① 第23回：膝関節の機能解剖および体表解剖② 第24回：膝関節の機能解剖および体表解剖③ 第25回：足関節の機能解剖および体表解剖① 第26回：足関節の機能解剖および体表解剖② 第27回：足関節の機能解剖および体表解剖③ 第28回：下肢機能解剖の確認 第29回：下肢体表解剖の確認① 第30回：下肢体表解剖の確認② 担当教員（全30回）：鎌塚（柔道整復師）、佐野（柔道整復師）
授業の進め方	教科書、配布資料に沿って授業をおこない適宜、視聴覚教材を用いる。 パワーポイント等を利用し授業内容を確認し、実習・演習・課題に各自取り組む。
能動的な学びの実施	自ら学ぶ意識を忘れずに課題に取り組み、積極的な授業態度が期待される。 グループに分け、実習や演習を適宜行う。 課題についてディスカッションを行い、知識・技術の修得に導いていく。
授業時間外の学修	予習：教科書や参考書の該当頁を通読すること。（60分） 復習：授業で学んだ骨・筋をまとめ、レポートにまとめる。（1時間15分） レポートは次回授業のはじめに提出すること。
教科書・参考書	【教科書】 「解剖学 改定第2版」 監修：全国柔道整復学校協会 発行：医歯薬出版 【参考書】 「柔道整復師 ブルーノート・基礎編」 監修：平澤泰介、発行：メジカルビュー
成績評価方法と基準	定期試験（60%）、課題レポート、中間テスト、積極性（40%）を総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	レポートの評価、コメントを付与して返却する。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	・授業では自ら学ぶ姿勢をもって実習に取り組むこと。 ・自ら学びに組み、他学生と協力し合い各授業で目的意識をもって受けること。 ・シラバスを確認し、予習・復習を行うこと。 ・原則、全授業に参加することを求める。 ・初めて基礎医学を学ぶ学生がほとんどであると思うが、模型や人体（骨・筋）に多く触れ、部位や名称を覚えること。覚えきれないと感じる人がいると思うが、諦めずに繰り返し取り組んでほしい。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 通信媒体（Zoom）、Web Class）を利用したオンラインまたはオンデマンド授業、課題授業にて講義を行う。 ②成績評価方法と基準 出席（30%）、授業で提示する課題レポート・オンライン試験(70%)などを総合して評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	基礎整復技術実習Ⅲ
授業コード	AF169
英語名称	Laboratory study in Basic Reposition-Technique 3
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	舟喜 晶子, 佐野 秀明, 松原 一誠
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目では柔道整復師が行う後療法（手技療法、運動療法、物理療法）の理論を理解し、基本的な技術を習得することを目的とする。また実践的な学びを通し、他者を思いやる心や自ら役割を見出す力を養う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目は後療法（手技療法、運動療法、物理療法）についての実践的科目である。 接骨院での実務経験豊富な教員（佐野、柔道整復師・松原、柔道整復師）と整形外科やスポーツ現場での実務経験のある教員（舟喜、柔道整復師）による講義を通して、幅広い分野で活躍する柔道整復師を目指すために必要な知識および実技を教授する。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「科学的根拠に基づいて評価・判断し、幅広い知識を身につけ、複合的な視点から知識を統合し問題解決にあたることができる」ことを目指し、柔道整復学実技の基礎となる柔道整復学理論のうち、後療法の概要について理解すること、またその基本的実技を習得することを目標とする。
計画・内容	第1回：手技療法①（概説・軽擦法の理論と実技）/運動療法①（概説・関節の運動方向） 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第2回：手技療法②（強擦法の理論と実技）/運動療法②（筋のしくみ・筋力の評価） 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第3回：手技療法③（揉捏法の理論と実技）/運動療法③（関節可動域訓練の概説） 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第4回：手技療法④（叩打法の理論と実技）/運動療法④（下肢の関節可動域訓練・筋力増強訓練） 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第5回：手技療法⑤（振戦法の理論と実技）/運動療法⑤（上肢の関節可動域訓練・筋力増強訓練） 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第6回：手技療法⑥（圧迫法の理論と実技）/運動療法⑥（体幹の関節可動域訓練・筋力増強訓練） 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第7回：手技療法⑦（伸長法の理論と実技）/運動療法⑦（持久力訓練・バランス訓練） 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第8回：手技療法⑧（まとめ）/運動療法⑧（まとめ） 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第9回：物理療法①（概説・寒冷療法・温熱療法の理論と実技1） 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第10回：物理療法②（電気療法・光線療法の理論と実技）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第11回：物理療法③（温熱療法の理論と実技2） 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第12回：物理療法④（牽引療法・その他の物理療法） 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第13回：物理療法⑤（超音波・まとめ） 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第14回：後療法のまとめ 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師） 第15回：総括 担当教員 佐野（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）・松原（柔道整復師）
授業の進め方	・座学で理論を理解した後、実技を行う。 ・理論の説明には教科書の内容をもとに適宜視覚教材やその他の参考資料を用いて理解を促す。 ・実技では理論をもとにペアあるいはグループにて相互に手技療法、運動療法、物理療法を施しながら実践的に学ぶ。 ・臨床での留意点や理論と異なるポイント等について教員がアドバイスを行う。 ・理解度、技術習得の確認のために各療法のまとめとして中間確認テストを行う。 ※状況により、理解度を確認するため小テストを行う場合あり。
能動的な学びの実施	・後療法について、グループディスカッションやグループワークにて、それぞれの考えをまとめ、実技の練習に取り組む。
授業時間外の学修	・授業前に予め該当箇所の教科書やその他の参考資料を参照し、不明な用語等があれば調べておくこと。 ・授業後には各回の内容を見直し、自主ノートを作成する等して理解を深めること。 ・課題に取り組むこと。 （1コマにつき予習2時間程度、復習2時間程度×30コマ＝合計120時間程度）
教科書・参考書	教科書 ●柔道整復学・理論編改定第7版（公益社団法人全国柔道整復学校協会監修）南江堂 2022年 ●解剖学（公益社団法人全国柔道整復学校協会監修）南江堂 2017年
成績評価方法と基準	以下の3項目により総合的に評価する。 ①期末試験：90%（実技(ロールプレイング形式)：45%/筆記試験：45%) ②小テスト：10% ※期末試験では、実技試験の60%以上、筆記試験の60%以上の両方の基準を満たすこと。
課題等に対するフィードバック	・必要に応じて、コメントをフィードバックする。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・必修科目であるため真摯に取り組むこと。 ・身だしなみには注意をはらうこと（ケーシー・白衣を着衣、室内履きの着用）。 ・接触アレルギー、疾病、怪我等、教員が予め把握しておかなければならないことは、申し出ること。（個人情報厳守） ・学内、学外問わず違法および危険な施術行為は行わないこと（学生間も含む）。 ・感染予防対策について教員の指示に従い、各自気を付けること。

2025年度 東京西学部時間割

非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 ・ zoomによるオンライン授業と課題学修の組み合わせを行う。 ②成績評価方法と基準 ・ 期末試験：70% - 実技(一人で可能な実技・口頭試問をオンラインで審査)：35% - 筆記試験（-googleフォーム）：35% ③課題：30% ※期末試験では、実技試験の60%以上、筆記試験の60%以上の両方の基準を満たすこと。
---	---

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	臨床整復技術実習Ⅱ
授業コード	AF260
英語名称	Laboratory study in Basic Reposition-Technique 2
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	市ヶ谷 武生, 佐野 秀明
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	柔道整復師は骨折や脱臼に対して、適切な評価と整復および固定を施す必要がある。特に上肢の骨折や脱臼は発生頻度が高く、臨床においては適切な対応が求められる。この授業では主に前腕骨、手根骨、中手骨、指骨の骨折に対する評価法、整復法、固定法の基本的な事項を理解し、あわせて基本的な処置を施せる技能を習得することを目的としている。とりわけ、臨床で好発する上肢の骨折に対する評価法、整復法、固定法の基本を理解し、必要かつ適切な実技が行えるように実習をおこなう。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・柔道整復師として臨床実践を行ってきた教員(市ヶ谷・佐野)が、発生頻度の高い前腕骨、中手骨、中手骨、手指骨の骨折の整復・固定・後療法について実技をおこなう。 基礎から段階的に教授し、臨床応用まで実践的な実技実習をおこなう。
到達目標	1)前腕骨、手根骨、中手骨、指骨の各骨折について、基本的な評価法、整復法、固定法について理解する。 2)前腕骨、手根骨、中手骨、指骨の各骨折について、基本的な整復法、固定法を習得する。 3)骨折に対して適切な応急処置が出来るようになる。 4)柔道整復の臨床医学に関する幅広い知識と視野を育成する。
計画・内容	第1回：骨折の評価法 基礎 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第2回：整復法の基礎 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第3回：固定法の基礎(1) 種類 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第4回：固定法の基礎(2) 柔道整復の固定法 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第5回：橈骨上端部骨折～評価法・整復法・固定法 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第6回：肘頭部骨折～評価法・整復法・固定法 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第7回：Monteggia骨折,Galeazzi骨折～評価法・整復法・固定法 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第8回：前腕骨骨幹部骨折～評価法・整復法・固定法 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第9回：橈骨下端部骨折(1)～評価法・整復法・固定法 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第10回：橈骨下端部骨折(2)～評価法・整復法・固定法 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第11回：手根骨骨折(1)～評価法・整復法・固定法 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第12回：中手骨折(1)～評価法・整復法・固定法 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第13回：中手骨折(2)～評価法・整復法・固定法 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第14回：手指骨折(1)～評価法・整復法・固定法 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第15回：特殊な整復法と固定法 担当：市ヶ谷（柔道整復師）・佐野（柔道整復師） 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。
授業の進め方	・実習時に基礎的な整復法、固定法、後療法を学ぶ。 ・毎回、スライドや動画を提示して理解を促す。 ・適宜資料を配布する。

2025年度 東京西学部時間割

授業の進め方	
能動的な学びの実施	・実技実習では教員が各テーブルを巡回して適宜アドバイスを与える。必要に応じて教員がデモンストレーションを行い理解を促す。 ・適宜グループワークを課してディスカッションやプレゼンテーションを行う。 ・実習を効率的に行うため、遠隔授業で学ぶ基礎的事項を理解しておくこと。配布する資料を熟読し、必要に応じて専門図書や資料を紹介するので目を通しておくこと。
授業時間外の学修	・予習：これまでに配布した資料を読んでおくこと（60～70分程度）。 ・復習：本授業の配布資料をまとめ、実技の練習をしておくこと（60～70分程度）。
教科書・参考書	【教科書】 ①「包帯固定学」全国柔道整復学校協会監修・南江堂 ②「柔道整復学（実技編）」全国柔道整復学校協会監修・南江堂
成績評価方法と基準	・授業内で実施する実技試験（100%）
課題等に対するフィードバック	・実習時は、教員が巡回して各学生に適宜、評価と助言をおこない実技能力の発展を支援する。 ・積極的に質問(対面、メール等)を受け付ける。
オフィスアワー	・Campus Squareを参照のこと。
留意事項	・臨床において重要な内容を含む実技である。真摯な態度で臨んでもらいたい。 ・不適切な態度な受講態度は一切認めないので注意すること。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	・zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 ・成績評価法：授業内の実技試験(100%)

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	臨床整復技術実習Ⅲ
授業コード	AF212
英語名称	Laboratory study in Basic Reposition-Technique 3
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	加藤 一雄, 松原 一誠
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	上肢の脱臼及び軟部組織損傷は臨床上重要かつ頻度が高い外傷である。 柔道整復師を目指すうえで必要な上肢の脱臼及び軟部組織損傷に対する柔道整復術の概要を学び、技術を修得する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本学教員（加藤一雄、臨床実践40年以上を行ってきた教員）が臨床で培った経験を踏まえて、上肢の脱臼と軟部組織損傷に対する評価法、応急処置法から実践的施術法に至るまで、臨床的な見地から実践的な実技実習を行う。
到達目標	カリキュラム・ポリシーに掲げる「疾病内容、疾病治療、疾病の回復に関する知識や視野を育成する」が実現するよう、上肢の脱臼及び軟部組織損傷に関する柔道整復学分野の基本的な知識を身につける。 柔道整復分野における上肢脱臼及び軟部組織損傷の基礎知識、施術法及び徒手検査法を修得し、施術プログラムの立案と保存療法の適応可否の判断ができるようになる。
計画・内容	第1回 肩部の構造と機能 第2回 肩鎖関節脱臼（概要） 第3回 肩鎖関節脱臼（整復法） 第4回 肩鎖関節脱臼（固定法） 第5回 肩関節の構造と機能 第6回 肩関節脱臼（概要） 第7回 肩関節脱臼（整復法） 第8回 肩関節脱臼（固定法） 第9回 肘部の構造と機能 第10回 肘関節脱臼（概要） 第11回 肘関節脱臼（整復法） 第12回 肘関節脱臼（固定法） 第13回 指部の構造と機能 第14回 指部の脱臼 第15回 上肢脱臼の後療法 第16回 上肢脱臼の総復習 第17回 肩部の軟部組織損傷（概要） 第18回 肩部の軟部組織損傷（徒手検査法） 第19回 肘部の軟部組織損傷（概要） 第20回 肘部の軟部組織損傷（徒手検査法） 第21回 手部の軟部組織損傷（概要） 第22回 手部の軟部組織損傷（徒手検査法） 第23回 指部の軟部組織損傷（概要） 第24回 指部の軟部組織損傷（徒手検査法） 第25回 末梢神経の構造と機能

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第26回 上肢の絞扼性神経障害（概要） 第27回 上肢の絞扼性神経損傷（徒手検査法） 第28回 上肢の絞扼性神経損傷の総復習 第29回 総括① 第30回 総括② ※全15コマ（30回）、加藤,松原（柔道整復師）が担当する。
授業の進め方	実技実習を中心として行い、適宜各外傷の施術に必要な内容を講義する。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングを取り入れ、実習を適宜行う。
授業時間外の学修	授業前にあらかじめ解剖学、運動学及び柔道整復学の該当範囲を読み、不明点をまとめておくこと（各回1～2時間程度） 授業後は速やかに授業内容をまとめ、理解すること（各回1時間程度）
教科書・参考書	（公社）全国柔道整復学校協会、柔道整復学・実技編（改訂第2版）、南江堂 （公社）全国柔道整復学校協会、柔道整復学・理論編（改訂第7版）、南江堂
成績評価方法と基準	定期試験（100%）
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーについては、次回授業開始時にフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	事前に基礎柔道整復総論Ⅰ～Ⅲを履修し、その内容を理解していることが望ましい。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 オンライン授業（zoom）と課題学修を組み合わせる。 ②成績評価方法と基準 定期試験（オンライン）（55%）と授業で提示する課題（45%）で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	柔道整復総合演習Ⅱ
授業コード	AF414
英語名称	Advanced Seminar in Judo-therapy 2
学期	2025年度通年（前・後）
単位	2.0
担当教員	市毛 雅之, 市ヶ谷 武生, 杉浦 加奈子, 松原 一誠, 舟喜 晶子, 富田 圭佑, 鎌塚 正志
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	これまでに学習した柔道整復理論における柔道整復学的な戦略（評価・鑑別診断・施術法・適応と禁忌）について学生自らが課題を設定して調査し、発表する。自主的学習を中心に、これらの基礎的および臨床的な見地から理解する。さらに基礎医学系・臨床医学系科目と柔道整復術の適応と禁忌について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	担当教員（柔道整復業務に精通し、臨床経験を有する）により、基礎医学から臨床医学ならびに柔道整復学を総合的に教授すると共に問題解決能力を身に付けるよう指導する。 長年接骨院で患者をみている柔道整復師がその経験を活かし、柔道整復師の適応範囲を明確にし各疾患の施術方法について教授する。
到達目標	カリキュラムポリシーに掲げる、関連科目の連携を重視しながら計画的に実施することで、社会の一員として協調性を持ちながら自主的に活動できるように、柔道整復学的戦略を修得することができる。 具体的には、柔道整復学的な評価、鑑別診断、施術法、適応と禁忌を学び、それらに対する現状の課題の設定やその解決に向けた調査を行い、柔道整復の現状を理解することができる。
計画・内容	習得すべき内容を完全に修学するためには、下記の予習や復習とともに講義・演習を習得すること。 以下の項目につき予習を1時間、復習を1時間15分行うことを前提としている。このそれぞれの内容はテキスト内に記載する①予習項目 ②復習項目を参考に行うこと。 1) 柔道整復学と人体解剖学概説 杉浦 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 2) 柔道整復学と人体解剖学概説 杉浦 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 3) 柔道整復学と内臓：消化器評価 杉浦 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 4) 柔道整復学と内臓：消化器評価 杉浦 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 5) 柔道整復学と内臓：消化器評価 杉浦 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 6) 柔道整復学と内臓系：呼吸器 杉浦 国家試験の過去問題を中心に、大事な箇所を総復習する。 7) 柔道整復学と内臓系：呼吸器 杉浦 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 8) 柔道整復学と内臓系：生殖器 市ヶ谷 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 9) 柔道整復学と内臓系：生殖器 市ヶ谷 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 10) 柔道整復学と運動系：骨 市毛（接骨院勤務40年目で臨床経験を元に講義する） 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 11) 柔道整復学と運動系：骨 市毛（接骨院勤務40年目で臨床経験を元に講義する） 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	1 2) 柔道整復学と運動系：骨 市毛（接骨院勤務40年目で臨床経験を元に講義する） 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 1 3) 柔道整復学と運動系：骨・筋 舟喜 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 1 4) 柔道整復学と運動系：骨・筋 舟喜 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 1 5) 柔道整復学と運動系：骨・筋 舟喜 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 1 6) 演習問題（柔整・整形） 佐野 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 1 7) 演習問題（柔整・整形） 佐野 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 1 8) 演習問題（外科） 杉浦 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 1 9) 演習問題（外科） 杉浦 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 2 0) 演習問題（病理） 富田 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 2 1) 演習問題（病理） 富田 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 2 2) 演習問題（運動） 舟喜 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 2 3) 演習問題（運動） 舟喜 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 2 4) 演習問題（柔整・整形） 鎌塚 国家試験の過去問題を中心に、重要事項を総復習する。 2 5) 演習問題（柔整・整形） 鎌塚
授業の進め方	国家試験問題や教科書の内容に沿いながら、補足事項を含めた内容を講義する。
能動的な学びの実施	設定した課題にたいしてグループディスカッションを行い、解決案を導いていく。
授業時間外の学修	予習：国家試験問題や教科書を通読し、重要項目について調べ、疑問点を明らかにしておく（各1時間） 復習：授業内容をノートに整理し、理解する（各1.15時間）
教科書・参考書	国家試験問題集（学科設定） 柔道整復学・理論編 改訂第6版 南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂
成績評価方法と基準	定期試験50%＋授業中の小テスト30%＋レポート20%
課題等に対するフィードバック	小テストの答えは返却し授業内で解説を行う。 学生発表は、その都度コメントを行う。 ノート、レポートはコメントを付与して返却する。

2025年度 東京西学部時間割

オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	私語を慎み、他の学生の迷惑にならないよう授業に臨むこと。 本科目は国家試験にとって必要であるから必ず履修すること。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 ②成績評価方法 zoom授業中課題50%と期末レポート50%で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	臨床実習Ⅲ
授業コード	AF323
英語名称	Clinical study in Judo-therapy 3
学期	2025年度通年（前・後）
単位	1.0
担当教員	市毛 雅之, 佐野 秀明, 富田 圭佑, 吉田 真琴, 市ヶ谷 武生, 杉浦 加奈子, 松原 一誠, 舟喜 晶子, 鎌塚 正志
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	本実習では、実際に附属臨床実習施設にて柔道整復師に必要とされる外傷に対する処置法やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。また、外傷や疾患に対して問題解決を行うための理論的な思考を現場の職員や実習生に検討することで、医療現場での協働性を身に着けることを目標とする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	担当教員は附属接骨院院長及び柔道整復師としての臨床経験豊富な柔道整復師資格を有する本学柔道整復学科教員（市毛、佐野、市ヶ谷、鎌塚、富田、杉浦、舟喜、吉田、松原：接骨院、整形外科での豊富な臨床経験有する）による、講義や実習を通じて柔道整復学を学び、臨床現場等に応用できる知識を学ぶ。
到達目標	カリキュラム・ポリシーに掲げる「修得した知識と技術を実際の臨床現場でその実践力を養う参加型の臨床実習」が実現できるよう、附属臨床実習施設および学内実習にて、課題と目標を自ら設定し、課題克服および目標達成に取り組む専門性と対応力を身に付けるよう、問題提起と思考力を養う。 【学内実習で得られる成果】 柔道整復を専攻する学生として、臨床見学時において適切な言葉と行動をとることができる。特に基本包帯法、テーピング法の適応、注意点などを説明し、ROM、MMTなどの基本評価ができる。 【学外実習】 附属接骨院の臨床見学を通し、柔道整復師の業務について理解できる。 附属接骨院職員及び学生間にて実習における課題を設定し、その課題に対し積極的に解決できる。 学生間にて協働性を高め、実習内にてチーム医療の実践できる。 患者様に対する言葉遣い、礼儀、マナー等を身につけ、コミュニケーションをとることができる。 附属接骨院での臨床実習を通じ、基本包帯法、テーピングが実践でき、身体評価が実践できる
計画・内容	■学内実習 ・見学にあたって必要となる、身だしなみ、挨拶、マナー等についてオリエンテーションを行う。必要に応じて、確認テストやレポートの提出を求める。 ・担当教員より確認テストやレポートの成績が「見学参加相当」と判断された場合、臨床見学が許可される。 ・予習については、事前に通知する。予習は1時間以上かけて行うこと。 ・復習については毎回指定する。復習は1時間以上かけて行うこと。 ・担当教員：市毛、佐野、市ヶ谷、鎌塚、富田、杉浦、舟喜、吉田、松原 ■学外実習 ・「臨床実習Ⅲ」は主に附属接骨院（帝京科学大学八王子接骨院、帝京科学大学山梨接骨院）で臨床現場の見学を行う。 ・見学実習の日程とスケジュール、グループ分けは追って通知する。 ・見学実習の指導は主に、附属接骨院の院長および勤務柔道整復師が行う。 ・各担当教員が見学先に赴き、指導を行う。 ・担当教員：市毛、佐野、市ヶ谷、鎌塚、富田、杉浦、舟喜、吉田、松原

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	(臨床実習Ⅲ：ポイント) ・包帯法、ギブス、テーピング実習 ・測定と評価 Step3-1 包帯法の復習 担当：吉田、市毛 Step3-2 肩関節包帯法（上行麦穂帯、下行麦穂帯） 担当：吉田、市毛 Step3-3 肘関節包帯法（集合亀甲帯、離開亀甲帯） 担当：吉田、舟喜 Step3-4 手関節、手指包帯法（環行帯、麦穂帯） 担当：吉田、舟喜 Step3-5 足関節包帯法（上行麦穂帯、三節帯、離開亀甲帯） 担当：吉田、杉浦 Step3-6 上肢における固定法①（コーレス骨折） 担当：吉田、杉浦 Step3-7 上肢における固定法②（肘関節脱臼） 担当：吉田、佐野 Step3-8 下肢における固定法①（足関節捻挫） 担当：吉田、佐野 Step3-9 下肢における固定法②（膝関節捻挫） 担当：吉田、富田 Step3-10 上肢の評価法と測定①（ROM、周径） 担当：松原、富田 Step3-11 上肢の評価法と測定②（MMT） 担当：松原、市ヶ谷 Step3-12 下肢の評価法と測定①（ROM、周径） 担当：吉田、市ヶ谷 Step3-13 下肢の評価法と測定②（MMT） 担当：吉田、鎌塚 Step3-14 Step 3 Paper test 担当：吉田、富田 Step3-15 Step3 実技試験 担当：吉田、市毛
授業の進め方	・学内実習と学外実習を行う。 ・学内実習では、講義と実習を行い、確認テストを行う。 合格者は「見学相当」と判断され、臨床見学が許可される。 不合格者は実習期間中に再試験を受け、合格すれば見学に参加できる。 合格できない場合、見学に参加できないので注意すること。 ・学外実習先では、指導者または担当教員から与えられた課題に対するレポートを提出すること。さらに、指定課題を与えるので、後日発表すること。 ・実習後は、自身が臨床実習で学んだ症例や経験を発表する。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングのLite法の実践により、短期記憶を中期記憶へ、中期記憶を長期記憶へと構築する。 学外実習時における学生からの質問は積極的に実施してもらいたい。
授業時間外の学修	・学内実習前は、予め配布する臨床実習ノートや教科書の該当箇所を読み不明な点をまとめておくこと。（各回1時間～2時間） ・学外実習前は、予め配布する臨床実習ノートや教科書の該当箇所を読み不明な点をまとめておくこと。（各回1時間～2時間） ・学外実習度は、実習にて見学した症例や学習した実習内容をデイリーノートにまとめ、ノートを整理すること。（各回1～2時間）
教科書・参考書	・適宜、資料を配布する。 ・必要または推薦図書や資料は、適宜案内する。
成績評価方法と基準	・実習前レポート（20%）＋実習時デイリーレポート（30%）＋ループリック法による実習評価（50%）にて評価する。 ・評価項目は別途明示する。
課題等に対するフィードバック	・学生からの質問、発表の都度、コメントを行う ・レポートはコメントを付与して返却する。
オフィスアワー	Campus Squareを参照。 臨床実習の前後20分。
留意事項	・学内実習で担当教員から「見学参加相当」の承認が得られないと見学実習に参加 できないので注意すること。 ・学内実習と学外実習は特別な理由がない限り、欠席は認めない。 ・適切な言葉や行動が取れないと判断された場合、途中で見学を中止することがあるので、緊張感を持って臨んでほしい。

2025年度 東京西学部時間割

留意事項	附属の接骨院に来院される患者様は様々な背景を持っている。臨床現場を見学するにあたり、本実習を受講する学生は、患者様に対しどのように振る舞うべきかを自ら考え、医療従事者としての自覚を持って取り組んでもらいたい。また、常識的な言葉遣いや、適切な行動を身につけ、社会一般的なマナーを習得し、臨床で経験した事柄をレポートにまとめ、後日発表をすることで、自分の経験を的確に表現できるようにする。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 zoomによるオンライン授業と課題学習を組み合わせる。 ②成績評価方法 授業中課題50%と期末レポート50%で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	臨床実習Ⅳ
授業コード	AF416
英語名称	Clinical study in Judo-therapy 4
学期	2025年度通年（前・後）
単位	1.0
担当教員	市毛 雅之, 佐野 秀明, 富田 圭佑, 吉田 真琴, 市ヶ谷 武生, 杉浦 加奈子, 松原 一誠, 舟喜 晶子, 鎌塚 正志
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	臨床実習Ⅳは、総合臨床実習として位置付けられ、臨床現場での総合力を評価する目的で実施される。医学教育の現場での総合力とは、認知領域・精神運動領域・情意領域の各側面から学生の実力を評価する。学生は柔道整復師としての知識と技術と人格を備えていることが期待される。臨床で経験した事柄をレポートにまとめ、後日発表をすることで、自分の経験を的確に表現できるようにする。 担当教員（市毛、佐野、市ヶ谷、鎌塚、富田、杉浦、舟喜、吉田、松原：接骨・整骨院、整形外科、での豊富な臨床経験有する）による、講義を通じて、実践同様に対する基礎学問技術や臨床現場等に応用できる柔道整復師としての役割を学び理解、修得する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	担当教員は附属接骨院院長及び柔道整復師としての臨床経験豊富な柔道整復師資格を有する本学柔道整復学科教員（市毛、佐野、市ヶ谷、鎌塚、富田、杉浦、舟喜、吉田：接骨院、整形外科での豊富な臨床経験有する）による、講義や実習を通じて柔道整復学を学び、臨床現場等に応用できる知識を学ぶ。
到達目標	カリキュラム・ポリシーに掲げる「修得した知識と技術を実際の臨床現場でその実践力を養う参加型の臨床実習」が実現できるよう、附属臨床実習施設および学内実習にて、課題と目標を自ら設定し、課題克服および目標達成に取り組む専門性と対応力を身に付けるよう、問題提起と思考力を養う。 【学内実習】 柔道整復を専攻する学生として、臨床見学時において適切な言葉と行動をとることができる。今まで学習してきた臨床実習Ⅰ～Ⅲの内容を十分に理解し、医療人としての心構えを身に着ける。 【学外実習】 附属接骨院の臨床見学を通し、柔道整復師の業務について理解できる。 附属接骨院職員及び学生間にて実習における課題を設定し、その課題に対し積極的に解決できる。 学生間にて協働性を高め、実習内にてチーム医療の実践できる。 患者様に対する言葉遣い、礼儀、マナー等を身につけ、コミュニケーションをとることができる。 附属接骨院での臨床実習を通じ、接骨院の日常業務ができる
計画・内容	■学内実習 ・見学にあたって必要となる、身だしなみ、挨拶、マナー等についてオリエンテーションを行う。必要に応じて、確認テストやレポートの提出を求める。 ・担当教員より確認テストやレポートの成績が「見学参加相当」と判断された場合、臨床見学が許可される。 ・予習については、事前に通知する。予習は1時間以上かけて行うこと。 ・復習については毎回指定する。復習は1時間以上かけて行うこと。 ・担当教員：市毛、佐野、市ヶ谷、鎌塚、富田、杉浦、舟喜、吉田、松原 ■学外実習（計45時間） ・「臨床実習Ⅳ」は主に附属接骨院（帝京科学大学八王子接骨院、帝京科学大学山梨接骨院）で臨床現場の見学を行う。 ・見学実習の日程とスケジュール、グループ分けは追って通知する。 ・見学実習の指導は主に、附属接骨院の院長および勤務柔道整復師が行う。

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	・各担当教員が見学先に赴き、指導を行う。 ・担当教員：市毛、佐野、市ヶ谷、鎌塚、富田、杉浦、舟喜、吉田、松原 (臨床実習Ⅳ：ポイント) ・総合臨床実習 Step4-1 施術時間前準備（清掃等）～身だしなみのチェック 担当：吉田、舟喜 Step4-2 施術時間前準備（機器準備） 担当：吉田、舟喜 Step4-3 患者との会話での注意点 担当：吉田、杉浦 Step4-4 目配り、気配り、心配り 担当：吉田、杉浦 Step4-5 施術ベッド等への誘導 担当：吉田、佐野 Step4-6 物理療法機器の準備 担当：吉田、杉浦 Step4-7 物理療法機器の片付け、消毒（診療補助） 担当：吉田、富田 Step4-8 診療補助① 固定具の準備 担当：吉田、竹内 Step4-9 診療補助② 評価、測定の前準備 担当：吉田、佐野 Step4-10 診療補助③ 施術録記載方法について 担当：吉田、富田 Step4-11 模擬施術体験①（OSCE形式） 担当：松原、鎌塚 Step4-12 模擬施術体験②（OSCE形式） 担当：松原、鎌塚 Step4-13 模擬施術体験③（OSCE形式） 担当：吉田、市ヶ谷 Step4-14 施術計画の立案実習 担当：吉田、市毛 Step4-15 症例報告発表 担当：全教員
授業の進め方	・学内実習と学外実習を行う。 ・学内実習では、講義と実習を行い、確認テストを行う。 合格者は「見学相当」と判断され、臨床見学が許可される。 不合格者は実習期間中に再試験を受け、合格すれば見学に参加できる。 合格できない場合、見学に参加できないので注意すること。 ・学外実習先では、指導者または担当教員から与えられた課題に対するレポートを提出すること。さらに、指定課題を与えるので、後日発表すること。 ・実習後は、自身が臨床実習で学んだ症例や経験を発表する。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングを実施し実習や演習を適宜行う。
授業時間外の学修	予習：柔道整復師として臨床実習に必要な基本的な知識の整理、技術練習を行うこと（合計15時間程度） 復習：実習において得た知識、症例などをまとめ、デイリーレポートへまとめる（合計15時間程度）
教科書・参考書	・適宜、資料を配布する。 ・必要な推薦図書や資料は、適宜案内する。
成績評価方法と基準	・実習前レポート（20%）＋実習時デイリーレポート（30%）＋ループリック法による実習評価（50%）にて評価する。 ・評価項目は別途明示する。
課題等に対するフィードバック	・学生からの質問、発表の都度、コメントを行う ・レポートはコメントを付与して返却する。
オフィスアワー	・Campus Squareを参照。 ・臨床実習の前後20分。
留意事項	学内実習で担当教員から「見学参加相当」の承認が得られないと見学実習に参加 できないので注意すること。また、学内実習と学外実習は特別な理由がない限り、欠席は認めない。適切な言葉や行動が取れないと判断された場合、途中で見学を中止することがあるので、緊張感を持って臨んでほしい。 附属の接骨院に来院される患者様は様々な背景を持っている。臨床現場を見学するにあたり、本実習を受講する学生は、患者様に対しどのように振る舞うべきかを自ら考え、医療従事者としての自覚を持って取り組んでもらいたい。また、常識的な言葉遣いや、適切な行動を身につけ、社会一般的なマナーを習得し、臨床で経験した事柄をレポートにまとめ、後日発表をすることで、自分の経験を的確に表現できるよ

2025年度 東京西学部時間割

留意事項	うにする。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 zoomによるオンライン授業と課題学習を組み合わせで実施する。 ②成績評価方法 授業中課題50%と期末レポート50%で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	アドバンスセミナー II
授業コード	AF420
英語名称	Advance Seminar 2
学期	2025年度通年（前・後）
単位	2.0
担当教員	佐野 秀明, 富田 圭佑, 大澤 一郎, 松原 一誠, 舟喜 晶子, 鎌塚 正志, 初鹿 宏明, 杉浦 加奈子
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	基礎医学、臨床医学、柔道整復学など総合的に捉え講義、問題演習や解答解説をおこなう。 最終学年の自覚を持ち、柔道整復師国家資格取得のための学習計画・生活計画を立案し、実行する。 柔道整復師となるために意識を高め、自ら効果的な学習方法に取り組む。 社会常識、医療倫理・社会問題その他専門分野への関心を深める。 個別面談（学習指導、就職指導など）を含む。
科目に関連する実務経 験と授業への活用	外部講師（接骨院を開業する豊富な臨床経験を有する）と学科教員（鎌塚正志、富田圭佑、杉浦加奈子：接骨院および整形外科での臨床経験を有する）が実践的な柔道整復学を教授すると共に、接骨院における保険制度とその取り扱い方について講義する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる「医療人の義務や医療倫理を理解し人類社会に奉仕する使命感を有している」、「科学的根拠に基づいて評価・判断し、幅広い知識を身につけ、複合的な視点から知識を統合し問題解決にあたることができる」が実践できるよう、医療従事者者として基本的な知識を身につけ応用することができる。
計画・内容	第1回 ガイダンス、個人面談（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師） 第2回 柔道整復師の現状および国家試験（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師） 第3回 柔道整復師と公衆衛生・健康（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師） 第4回 柔道整復師と疾病予防・感染症・消毒（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師） 第5回 柔道整復師と環境（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師） 第6回 柔道整復師と保健（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師） 第7回 柔道整復師と衛生行政・疫学（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師） 第8回 小テスト（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師） 第9回 個人面談（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師） 第10回 柔道整復学と感染性疾患（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師） 第11回 柔道整復学と腫瘍（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師） 第12回 柔道整復学と非感染性疾患（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師） 第13回 柔道整復学と骨・軟部疾患（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第14回 柔道整復学と神経・筋疾患（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師）
	第15回 小テスト（担当：鎌塚正志、富田圭佑；柔道整復師）
	第16回 柔道整復学と社会保障制度（担当：杉浦加奈子；松原一誠；柔道整復師）
	第17回 柔道整復学と療養費（担当：杉浦加奈子；松原一誠；柔道整復師）
	第18回 柔道整復学と医療従事者の医療倫理（担当：杉浦加奈子；松原一誠；柔道整復師）
	第19回 柔道整復学と患者への対応（担当：杉浦加奈子；松原一誠；柔道整復師）
	第20回 柔道整復学と社会責任と対応（担当：杉浦加奈子；松原一誠；柔道整復師）
	第21回 小テスト（担当：杉浦加奈子；松原一誠；柔道整復師）
	第22回 個人面談（担当：杉浦加奈子；松原一誠；柔道整復師）
	第23回 柔道整復学と柔道整復師法：総則、免許柔道整復師名簿、試験（担当：杉浦加奈子；松原一誠；柔道整復師）
	第24回 柔道整復学と柔道整復師法：業、施術所、雑則、罰則（担当：杉浦加奈子；松原一誠；柔道整復師）
	第25回 柔道整復学と関係法規：総論、医療法、医師法（担当：杉浦加奈子；松原一誠；柔道整復師）
	第26回 柔道整復学と関係法規：保健師助産師看護師法、診療放射線技師法、理学療法士および作業療法士法、薬剤師法（担当：杉浦加奈子；松原一誠；柔道整復師）
	第27回 柔道整復学と国民医療費（担当：杉浦加奈子；松原一誠；柔道整復師）
	第28回 健康保険（担当：山梨県柔道整復師会学術部員；柔道整復師）
	第29回 健康保険の取り扱い（担当：山梨県柔道整復師会学術部員；柔道整復師）
	第30回 個人面談（担当：杉浦加奈子；松原一誠；柔道整復師）
授業の進め方	板書およびパワーポイント使用して講義し、必要に応じて資料、視覚教材を用いる。
能動的な学びの実施	学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	授業前に該当箇所を読み、不明点をまとめておく（各回1時間） 教科書やプリントと関連付けて講義ノートを整理する（各回1時間）
教科書・参考書	特になし
成績評価方法と基準	定期試験（50%）、小テスト（20%）、課題（30%）で評価する
課題等に対するフィードバック	レポートはコメントを付与して返却する
オフィスアワー	CampusSquareを参照

2025年度 東京西学部時間割

留意事項	自ら課題に取り組み、積極的に学習すること。 私語を慎み、他の学生の迷惑にならないよう授業に臨むこと。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 通信媒体（Zoom）、Web Class）を利用したオンラインまたはオンデマンド授業、課題授業にて講義を行う。 ②成績評価方法と基準 出席（30%）、授業で提示する課題レポート・オンライン試験(70%)などを総合して評価する。